



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033~4
編集兼
発行人 田口芳博
半年間1,800円送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
825-普通2612963

三池不当解雇
第十五回公判
日時 6月26日(水) 13時10分
場所 福岡地裁三〇一法廷
※十時五十三分西鉄電車発
※中原組合長の主導関

上期生産量117万5千トン
年間15万トン減、減員は無補充

中央炭産会議
上期生産量

九次策答申

閉山、縮小への道ひらく

均衡点は安楽死、山元で危機感広がる

今後の石炭政策のあり方を審議していた石炭審(会長・斎藤英四郎経団連名誉会長)は六月七日、答申をまとめた中尾通彦相に提出した。この答申は、従来のような生産目標は示さず、均衡点まで段階的に縮小することを柱としたもので、現存炭鉱の維持・存続とはおおよそかけ離れた内容であり、山元では「生き残り」への危機感が広がっている。

答申の内容は、すでに原案として示されていたが、予想されたようにきわめてきびしいものとなっている。その骨子は、①生産量は明示せず、均衡点まで段階的に縮小する②需給は需給界の自主的な取引関係に基づき、弾力的に協力する③I/Q(輸入割当)制度を廃止する④基礎炭価を算出(引き下げ)する⑤経営対角化、新分野開拓をめざし支援策や合理化策への補助金などを拡充する⑥地域振興対策を積極的推進する⑦職員の再就職を促進する、などです。

この答申は、私たちが強く要求していた「現存炭鉱の維持・存続」は、「均衡点」の表現で早期総撤退には歯止めをかけた意味があるが、(炭炭の見解)ことは当然です。三池炭組は、この答申に賛成し、三池炭協と三井石炭社に抗議電報を打ち、各職場分会などの集会を開いて報告するとともに、今後のたたかいについて意志統一をはかりました。(関連記事二面)

このように九次策答申について山元では「これ以上の縮小合理化があれば生産維持は不可能だ。つぶすことを前提にしたもの」と、事態を深刻に受けとめています。

三池炭組は、この答申に賛成し、三池炭協と三井石炭社に抗議電報を打ち、各職場分会などの集会を開いて報告するとともに、今後のたたかいについて意志統一をはかりました。(関連記事二面)

九次策の軸になっているのは生産量の「均衡点」を指すことである。石炭審の中で河原崎三池炭協会長が「経営の多角化と新分野を開拓し、適正水準へ移行する」と発言したが、これは、生産縮小構想であり、「均衡点」と同義語である。

縮小方向は、「需要の自主的取り引きを基礎」とする以上、歯止めはかけられない。海外炭との価格差が二倍以上という現状で「炭価を下げて」競争したと

現状維持へ
正念場のたたかい

したがって、八次策までは一応国内炭保護の立場から生産量を抑制してきたが、もとの必要をないといふことなのだ。経済

国内使用量の割にすぎない国内炭をエネルギーの安全保障の意味においても残す炭鉱を守るたたかいは、まさにこれが正念場だ。

今後の政策闘争が焦点
炭労、七月四日から定期大会

九次策の答申は予想されたようにきびしい内容でしたが、具体的課題は今後に残された。炭労は、今後の政策闘争を論議する定期大会を七月四日から二日間総評会館で開きます。

三池炭組は、きびしい内容の九次策答申という状況のもとで、今後急進に進むことが予測される人員計画に伴う諸問題、財務対策に關連する社宅問題、職場環境・保安問題などについての提案・交渉について、職場・地域の意向を尊重し、①今後の石炭政策闘争について、職場・地域の意向を尊重し、②上期期末手当闘争及び秋季闘争、池炭委員会は二十四日。

性だけを重視して取り引きを市場原理にゆだねることは総撤退を意味し、貴重な国内エネルギー資源を放棄することになる。三池炭組では、これ以上の縮小は人員・採算などにとっても不可能である。とすれば現状維持か閉山の岐路に立たされるわけだが、なんとでも現状を維持しなければならぬ。炭鉱を守るたたかいは、まさにこれが正念場だ。

三池炭組では、これ以上の縮小は人員・採算などにとっても不可能である。とすれば現状維持か閉山の岐路に立たされるわけだが、なんとでも現状を維持しなければならぬ。炭鉱を守るたたかいは、まさにこれが正念場だ。

三池炭組では、これ以上の縮小は人員・採算などにとっても不可能である。とすれば現状維持か閉山の岐路に立たされるわけだが、なんとでも現状を維持しなければならぬ。炭鉱を守るたたかいは、まさにこれが正念場だ。

三池炭組では、これ以上の縮小は人員・採算などにとっても不可能である。とすれば現状維持か閉山の岐路に立たされるわけだが、なんとでも現状を維持しなければならぬ。炭鉱を守るたたかいは、まさにこれが正念場だ。

炭鉱つぎの答申に反対する



大牟田・荒尾、市内3カ所で座り込み



座り込みに続く住民集会 (5月22日)

生産会議資料

人員計画 (一般職・人)		1991年3月末		増減	9月末
三池炭	採炭掘進	99	-3		96
	坑内	217	-1		216
	坑外	1,254	-23		1,231
	計	55			55
本所	採炭掘進	1,309	-23		1,286
	坑外	147	-6		141
	坑内	147	-6		141
	計	147			141
炭業所	採炭掘進	99	-3		96
	坑内	217	-1		216
	坑外	1,254	-23		1,231
	計	202	-6		196
計	採炭掘進	1,456	-29		1,427
	坑内				
	坑外				
	計				

三池炭 1990 年度下期出炭実績 (1990.9~1991.3)				
計画(トン)	実績(トン)	能率(人/トン)	遂行率(%)	日産(トン)
1,250,000	921,513	125.9	73.7	6,269
三池炭 1991 年度上期出炭計画 (1991.4~1991.10)				
計画(トン)	能率(人/トン)	掘進先数	日産(トン)	
1,175,000	147.5	直轄9.7 請負3	7,993	
三池炭需給実績・計画 (トン)				
	1990年下期計画	実績	増減	1991年上期計画
出炭	1,250,000	921,513	-328,487	1,175,000
送炭	1,827,000	1,711,128	-115,872	1,070,000
期首貯炭	2,464,259	2,464,259		1,612,128
期末貯炭	1,838,259	1,612,128	-226,131	1,657,128

二二五万トンは採算限度

提案された年間生産量二二五万トンは、三池炭鉱を維持できる採算のボーダーラインとされているが、前年度は二二五万トンの目標に対して断崖な

ど自然条件の悪化で三六万トン弱の減産。出炭確保のために、人員・保安・切り羽展開がカギだ。